

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の 所在地
①	くししろかひめじんじや 櫛代賀姫神社 (くししろかひめじんじやほんでん) (櫛代賀姫神社本殿)	未指定有形 (建造物) / 国登録有形 (建造物)	式内社。本殿の一部に、1584年に益田藤兼・元祥が再建した際の建築部材が残る。 境内からは眼下の益田川河口と益田平野を一望することができ、港町が成立した地理的な背景ができるどころ。	
②	ふくおうじ 福王寺 (ふくおうじせきどうじゅうさんじゅうとう /石造物群)	未指定有形 (建造物) / 県有形 (建造物) / 未指定有形 (建造物)	中須東原遺跡に隣接し、交易に関わった寺院と考えられる。 境内には、十三重塔をはじめ、六甲、日引、福光など、中世の主要な交易拠点近辺に産する石材による中世の石塔が数多く残されており、中世の多様な交易の様子を伝える。	
③	なかずひがしはらいせき 中須東原遺跡	国史跡	中世の港町を代表する遺跡で、中世の益田地域と益田氏の経済を支えた交易拠点と考えられる。 往時の集落跡とともに、その成立要因である砂丘が残り、隣接する福王寺を含め、中世の景観を今にとどめる。	
④	ちゅうせいまいちいせき 中世今市遺跡	市史跡	安土桃山時代の港町の遺跡で、江戸時代まで港として存続した。中央の道の両側に短冊状の地割りが残る。幕末の石垣積みが往時の荷揚げの様子を想像させる。	
⑤	たいきあん 大喜庵 (もくぞうかんのんぼさつりゅうぞう 木造観音菩薩立像 / おとよしたいきあんぼちせつしゅう 乙吉大喜庵墓地 雪舟 はか 墓)	未指定有形 (建造物) / 県有形(彫刻) /市史跡	雪舟が滞在し、亡くなったとされる東光寺を江戸時代に再興した寺院。東光寺は益田氏の庇護を得て、名僧が住職を務めた。雪舟墓は、江戸時代に雪舟の墓が荒廃したことを憂いた人々によって再興された墓。	
⑥	しほんちやくしよくますだかねたかぞう 紙本著色益田兼堯像 / やすどみけもんじよすふけもんじよ 安富家文書 / 周布家文書 ますだふじかねしよじょう きんがつ / 益田藤兼書状 (三月 はつか きつ きつべつかしあて 二十日 / 杵築別火氏宛) よしだけもんじよせつしゅう / 吉田家文書 / 雪舟 ぜんじぞう 禅師像	重要文化財 / 県有形(古文書) / 県有形 (古文書) / 市有形(古文書) / 市有形 (古文書) / 市有形(彫刻)	益田兼堯像は、中世の益田の文化の高さを示す絵画。日本を代表する芸術家・雪舟が描いた、室町時代の益田氏当主の肖像画。益田兼堯は父と兄の死により家を継ぎ、益田氏存続のため奮闘し、晩年は雪舟を招き親しく交わった。 これを所蔵する益田市立雪舟の郷記念館では、雪舟の偉業と足跡を学ぶことができる。	

⑦	ますだしりつれきしみんぞくしりょうかん 益田市立歴史民俗資料館 (旧美濃郡役所)	国登録有形 (建造物)	中世の史跡や寺院が集中する地区に立地する。大正時代の美濃郡役所として建設された建物。1983年に益田市立歴史民俗資料館となり、三宅御土居跡や七尾城跡のガイドンス機能をもつ。	
⑧	ななおじょうあと 七尾城跡／ すみよしじんじや 住吉神社	国史跡 ／未指定有形 (建造物)	領主益田氏の城跡。全長 600mに及ぶY字状の尾根全体が要塞化された堅固かつ大規模な山城跡。 住吉神社は、中世に妙義寺境内に勧請され、江戸時代に現在の七尾山中腹に移された。 本丸跡からは、城下を見渡すことができる。	
⑨	みょうぎじ 妙義寺 (七尾城 附 妙義寺境内) もくぞうじゅういちめんくわんおんぼくさつ ／木造十一面観音菩薩 りゅうざう 立像／妙義寺桜谷 ごりんとう でんますだ ふじかほはか 五輪塔(伝益田藤兼墓)／ みょうぎじくらだに 妙義寺桜谷五輪塔(伝 ますだかねいへはか みょうぎじ 益田兼家墓)／妙義寺 もんじよ みょうぎじいしほし 文書／妙義寺石橋)	未指定有形 (建造物)／ 県史跡／県有 形(彫刻)／ 市有形(建造 物)／未指定 有形(建造物) ／未指定有形 (古文書)／未 指定有形(建 造物)	1581年に益田氏によって再興され、この地域の曹洞宗の中核寺院に位置づけられた。 仏像や古文書からも歴史を体験でき、本堂では座禅体験や演奏会なども行われる。境内には、益田氏当主の墓と伝わる大型の五輪塔がある。 妙義寺参詣道は益田のまちの基軸線の一つをなす。	
⑩	きょうおんじ 暁音寺 (木造阿彌陀如来立像 ／暁音寺山門及び鐘楼 ／暁音寺前の鍵曲跡)	未指定有形 (建造物)／ 県有形(彫 刻)／市有形 (建造物)／未 指定史跡	暁音寺は中世の創建で、江戸時代最初期に益田氏家老の屋敷があった現在地に移った。 暁音寺の東側は、かつて道が鍵曲り(クランク)状になっていた。現在は、路面標示により、その姿の名残をとどめている。 七尾山を背景に、山門と鐘楼のたたずまいは、城下町のランドマークの一つ。この鍵曲りを中心に中世の城下らしい街路を体験できる。	
⑪	なかはらけじゅうたく 中原家住宅	未指定 有形(建造物)	かつて銘酒「白菊」を生産していた蔵元。城下の建物として、もっともその空気感をのこす。現在は廃業しているものの、店舗と酒蔵が残されており、酒蔵では季節に落語会などが催されている。	
⑫	みぎたほんてんさかぐら 右田本店酒蔵	未指定 有形(建造物)	右田本店は、1602年、益田氏が須佐に遷ったことで、益田がさびれることを憂いた右田宗味が始めたという。 銘酒「宗味」や中世の酒を再現した「与三右衛門」を生産している。	
⑬	みやけおどいあと 三宅御土居跡	国史跡	領主益田氏の館跡。東西に高さ5mの土塁が築かれ、周囲に堀を巡らせた、堅固かつ大規模な館跡。東西190mに及ぶ。長靴を横に倒したような形をしている。	

<p>⑭</p>	<p>せんこうじ 泉光寺 (絹本着色釈迦十六善神像)</p>	<p>未指定有形(建造物)／ 県有形(絵画)</p>	<p>江戸時代から現代まで、三宅御土居跡の中心にあって、御土居を守ってきた寺院。国史跡指定後に三宅御土居跡西方 500m の位置に移転した。 染羽天石勝神社の別当寺勝達寺の遺宝釈迦十六善神像から、その文化水準をうかがうことができる。</p>	
<p>⑮</p>	<p>まんぶくじ 萬福寺 (萬福寺本堂 附 棟札7枚／萬福寺庭園／絹本着色二河白道図／書院襖絵／木造阿弥陀如来立像／流仏三体像／木造阿弥陀如来坐像／益田兼見像／萬福寺文書／華南三彩壺／萬福寺椎山墓地五輪塔(伝益田兼見墓))</p>	<p>国重要文化財／国史跡及び名勝／国重要文化財／県有形(絵画)／県有形(彫刻)／市有形(彫刻)／市有形(彫刻)／未指定有形(絵画)／未指定有形(古文書)／未指定有形(美術品)／市指定有形(建造物)</p>	<p>1374 年に創建された益田氏の菩提寺の一つ。時宗寺院。美しい本堂は、当時の建築様式をそのまま伝える。 庭園は雪舟の作庭と言われ、医光寺庭園とあわせて、室町の独特の庭園を四季折々楽しむことができる。 このほか、優れた仏像・仏画の数々、益田氏当主の画像、東南アジア貿易への関与を示す華南三彩壺などもあわせて、益田の中世文化の粋が味わえる。</p>	
<p>⑯</p>	<p>そめはあめのいわかつじんじや 染羽天石勝神社 (染羽天石勝神社本殿／染羽天石勝神社神楽殿／勝達寺跡)</p>	<p>国重要文化財／指定有形(建造物)／未指定史跡</p>	<p>式内社。益田氏も「当所根本大社」＝地域の氏神として大切にしている位置づけている。本殿は 1583 年に益田氏が再建したもので、安土桃山時代の神社建築の美しい姿を見ることができる。</p>	
<p>⑰</p>	<p>いこうじ 医光寺 (医光寺庭園／医光寺総門／医光寺中門／木造釈迦如来坐像／木造薬師如来坐像／木造薬師如来坐像／木造弘法大師坐像／木造伝龍門土源坐像／益田宗兼像／山水図／崇観寺跡)</p>	<p>未指定有形(建造物)／国史跡及び名勝／県有形(建造物)／国登録有形(建造物)／市有形(彫刻)／市有形(彫刻)／市有形(彫刻)／市有形(彫刻)／市有形(彫刻)／市有形(彫刻)／未指定有形(絵画)／未指定史跡</p>	<p>臨済宗医光寺の西隣にかつてあった臨済宗崇観寺は室町幕府の諸山に列せられた重要な寺院。益田氏も諸山にするために運動し、特に「賞翫」＝大切にすべき寺院と位置づけている。崇観寺が衰退したあと、医光寺がこれに替わって重視された。 庭園は雪舟の作庭と伝わり、萬福寺庭園とは趣を異にするが、四季折々の美しい姿を楽しむことができる。 開山堂の仏像群は、南北朝・室町の優品ばかりである。</p>	
<p>⑱</p>	<p>けんぼんちやくしよくますだもとよしぞう 絹本着色益田元祥像</p>	<p>国重要文化財</p>	<p>益田にいた最後の益田氏当主元祥の肖像画。狩野松栄の筆で、虎皮が描かれるなど、見どころの多い絵画である。</p>	

⑱	つ も こうざんあと 都茂鉦山跡	未指定史跡	益田川の上流に位置する鉦山跡。881年から1987年まで稼働した鉦山で、江戸時代には石見銀山とともに幕府の直轄地となった。 主に銅を産出したが、中世末期には銀も産出し、その鉦物資源は中世の重要な交易資源であったと考えられる。
⑳	おおとしのもといせき 大年ノ元遺跡	未指定史跡	都茂鉦山跡の下流に位置する室町時代の銅精錬の工房跡。中世に都茂鉦山が稼働していたことを示す。
㉑	しんぼうざんはちまんぐう 神宝山八幡宮 (草野家文書)	未指定有形 (建造物) / 未指定有形 (古文書)	益田氏が鎌倉時代後期に本拠を置いていた東仙道に鎮座する神社。益田氏の氏神である御神本大明神も合祀されている。高台に位置し、東仙道の地勢がよくわかる。
㉒	ひきみ さんりん 匹見の山林	未指定 天然記念物	益田市匹見町は中国山地に抱かれた落葉広葉樹林帯が広がり、江戸時代には林業と木地師によって栄えた。 中世には、川下しされた材木が国内外へと輸出され、益田の主要な交易品となっていた。
㉓	たかつがわ ひきみがわ 高津川と匹見川	未指定 天然記念物	益田はもとより、石見西部の大動脈であった河川。 河口の港と上流域を結び、交易品が行き交う河川交通を担った。 全国唯一のダムがない一級河川で、水質日本一に何度も輝き、鮎や鰻、ツガニなどの恵みを今ももたらしている。いかだ流し大会なども行われる。
㉔	ますだがわ 益田川	未指定 天然記念物	中世の益田の港町と益田氏の城下をつなぐ。
㉕	くわぼらしめぞう 桑原酒造	未指定有形 (建造物)	高津川の旧河道沿いの蔵元。高津川の伏流水をもとに、銘酒「扶桑鶴」や「高津川」を生産する。
㉖	あゆ 鮎とうるか	未指定 天然記念物	1568年に益田氏が戦国大名毛利元就に振る舞った料理の献立にその名が見え、高津川・匹見川の鮎やうるかと推測される。今でもこの地の特産品である。